

「運命の10年」に向けて

平成29年度施政方針

清水市長は、平成29年さいたま市議会2月定例会において施政方針演説を行い、市政運営の基本的な考えや、主要な施策などについて説明しました。

「市民一人ひとりがしあわせを実現したい。」「この思いで「責任と共感・共汗」(まよつかん)、「徹底した現場主義」、「公平・公正」を開かれた市政」という3つの基本姿勢の下、常に全力で市政の舵取りに当たってまいりました。

そして、市民の皆さんとの約束を着実に実現するため、「しあわせ倍增プラン」、「行財政改革推進プラン」、「さいたま市成長戦略」、「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、着実に施策を推進してまいりました。

このような本市のさまざまな取り組みや、本市誕生以来の先人を含め、議員各位、市民・企業・団体の皆さんのおかげで、「平成28年度 さいたま市民意識調査」では、本市を「住みやすい」、「これからも住み続けたい」という市民の割合は、過去最高を記録し、調査を開始した平成19年度から上昇基調が続いております。また、昨年の日本総合研究所の指定都市幸福度ランキングでは、幸福度1位の評価をいただきました。

「運命の10年」を更なる発展に「結」び付ける

今後は、本市も少子高齢化の急速な進展により、地域力の低下が懸念されるとともに、財政運営も厳しさを増すことが見込まれます。

私は、こうした本市を取り巻く厳しい状況の影響を緩やかなものとすることは可能であると考えており、これからの5年、10年は、そのために最も重要な時期であるということを、これまでも申し上げてまいりました。

そうした中、国の「国土形成計画 首都圏広域地方計画」では、これからの10年は、首都圏全体にとってもその将来を決する「運命の10年」とされました。

同計画において、本市は、東日本の対流拠点として、東日本の発展の中でも、日本全体の中でも大変重要な位置付けをされました。こうした動きと軌を一にし、この「運命の10年」を本市の更なる発展に「結」び付けていかなければなりません。

私は、同計画を踏まえ、本市を、「東日本を連結する対流拠点都市」とし

て、首都圏、東日本、日本全体、そして世界の中でさまざまな役割を果たし、貢献する都市とすることが、私たちの責務であると考えております。



提供：株コア

「東日本を連結する対流拠点都市」へ

「東日本を連結する対流拠点都市」の形成に向けて、「東日本の中枢都市」の形成の取り組みを更に進めてまいります。また、「日本一の安心減災都市づくり」の取り組みも進めてまいります。さらに、ビジネス面での拠点機能の強化として、本市の特性を活かした産業振興を進めてまいります。

「上質な生活都市」の実現へ

「上質な生活都市」の実現に向けて、子育て・教育環境の更なる充実、年齢や性別、障害の有無にかかわら

ず、「みんなに『居場所がある』まちづくり」を進めてまいります。また、見沼田圃(たんぼ)など緑豊かな自然環境を有する本市の特性を活かし、自然と共生した「環境未来都市の実現」を進めてまいります。

「高品質経営市役所」へ

「高品質経営市役所」への転換に向けて、市民満足度を2020年までに90%以上とする「CS90運動」を引き続き強力に展開するとともに、「CS」のもう一つの意味である「チャレンジさいたま」の姿勢で、全身全霊をかけて取り組んでまいります。

※平成29年度施政方針の全文は、市ホームページ、各区情報公開コーナーでご覧になれます。



もっと身近に、
もっとしあわせに

さいたま市は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに、市民満足度90%以上を目指す「さいたま市 CS90運動」に取り組んでいます。
「CS」… Citizen Satisfaction = 市民満足度

平成29年度の主要な事業

次代を担う人材をはぐくむ「若い世代をアシスト」

- 「妊娠・出産包括支援センター」の全区配置と産後ケアを実施
- 子どもの貧困に関する実態調査と子どもの貧困対策計画を策定
- 子ども・家庭、地域の子育て機能を総合的に支援する、さいたま市子ども家庭総合センターを整備
- 待機児童解消を目指し、保育所等の定員を1,332人増員
- 英語教育「グローバル・スタディ」を全ての市立小学校で授業時間数を拡大して実施
- 発達障害・情緒障害通級指導教室を現在の8教室から新たに20教室増設して28教室に拡充

市民一人ひとりが元気に活躍する「スマートウェルネスさいたま」

- アクティブチケット交付事業とシルバーポイント（長寿応援ポイント・介護ボランティア）事業を推進
- 健康マイレージに介護予防の観点を加味し、65歳未満の年齢上限を撤廃して対象者を拡大
- 高齢者や市民の生きがいがつくりと健康の増進を図るため、西区宝来に公認のグラウンド・ゴルフ場を整備
- 市民マラソンとオリンピックなどの女子マラソン代表選考レースを併せた「さいたま国際マラソン」を開催



さいたま市PRキャラクター
つながり竜ヌウ

新しい価値を創造し、革新（イノベーション）する「産業創出による経済活性化」

- 市内中小企業の経営基盤強化、創業者の育成、女性の起業などを総合的に支援
- 本市の東日本の交流拠点都市実現のため、「（仮称）東日本連携支援センター」を整備
- 平成29年4月に開催する「第8回世界盆栽大会 in さいたま」のPRを行うとともに、関連イベントなどを実施
- 東日本地域の地域資源を相互に活用した観光客誘致に向けた広域観光周遊ルートの形成を検討

自然と共生しながら、都市の機能を向上する「上質な暮らしを実現できる都市」

- 運輸部門の低炭素化と災害時の輸送手段確保のため、電気自動車に加え、燃料電池自動車など、次世代自動車の普及を促進
- 東日本の玄関口としての本市の地位向上に向け、「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」の策定を推進
- 大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業を推進
- 浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業を推進

みんなで安全を支える「安心減災都市」

- 民間建築物の耐震補強などの助成や橋りょうの耐震化を実施
- 幹線道路の歩道整備、生活道路の安全対策であるゾーン30の整備を実施
- 踏切内の歩行空間整備を行う踏切改良などを実施
- （仮称）見沼区片柳地区消防署の建設工事、岩槻消防署の建設実施設計、中央消防署用地既存建物解体設計を実施



▲ゾーン30

詳しくは、都市経営戦略部（☎829・1035、FAX 829・1997）へ。